丸山眞男文庫設立のこと

丸山眞男文庫準備委員会委員長　大隅和雄

一九九七年十一月も末近い日の夜、国際基督教大学の松沢弘陽氏から電話がありました。その内容は、丸山先生が亡くなられた後、先生の蔵書とノート・手稿類の寄贈先について、関係者の間で相談が続けられていて、東京女子大学が寄贈先の一つに上がっているが、そうなったら受けてもらえるだろうか、そちらの意向を聞きたいというものでした。

史学科で日本思想史を専攻している私は、北海道大学文学部に勤務していた時、法学部の松沢氏から、丸山先生の御本や論文の読み方について、沢山のことを教えていただきました。東京女子大学に移ってからも、いろいろと教えを受けていましたが、氏が、近くの国際基督教大学に移られてからは、お目にかかる機会も多くなっていました。

東京女子大学では、一九九六年の初夏に新しい図書館が落成し、夏休みに新図書館への移転を終えたところでした。松沢氏は、丸山先生の蔵書の寄贈先の、候補に上がった東京女子大学の図書館長が私だったので、打診の電話をということになったのだと思います。その電話は、私にとって生涯の大事件ともいうべきものでしたから、丸山先生の御本が整然と並ぶ東京女子大学図書館の書架を思い描き、一九五三年に聴講した先生の日本政治思想史のことをはじめ、思い出の糸を手繰っている中に、一睡もしないで夜が明けてしまいました。

朝になって、図書館の書庫の広さのこと、図書館の人手に余裕のないことなどを思うと、御寄贈を受けるとすれば、大学にそれな

りの決意がなければならないと考えました。まず、図書館の責任者の意向を打診し、根岸愛子学長代行、、今井宏学長代行補佐の意見を確かめて、丸山眞男文庫設立は可能と判断した私は、早速、松沢氏に、東京女子大学を候補に加えていただきたくお願いいたしますという電話をかけました。

十二月の初めに、丸山ゆか里夫人から、蔵書・その他の資料を一括寄贈したいという御手紙をいただいた後は、学内の相談は速やかに進み、年明け早々に、速水優理事長以下の関係者が揃って先生のお宅に伺い、御礼のご挨拶を申しあげ、学内には丸山文庫準備委員会を置いて、文庫開設の準備を進めることになりました。

大学は、図書館の地階書庫に、丸山眞男文庫の区画を新設する工事を始め、一九九九年の春に工事の完了を待って、図書・資料の搬入と整理が始まりました。その間、学外の丸山眞男文庫協力の会を始め有志の方々の、献身的な御協力を得ることができ、図書館も積極的に仕事を進めて、文庫開設の準備は順調に進んで現在に至っています。できるだけ早く目録を作成し、まずは、御寄贈いただいた図書・雑誌の全容を奥様に知っていただきたいと考えていましたので、私どもの感謝の思いの一端が、とりあえず形になったことを、大変嬉しく思っている次第です。

二〇〇一年三月

〔『丸山眞男文庫寄贈図書資料目録』、二〇〇一年所収〕